東京ＦＩＡニュース

第４１号　2007年9月4日　東京国際農業者協会

平成１９年度帰国報告会

６月２３日（日）代々木オリンピックセンターで帰国報告会が開催されました。今回はスイスで研修を修了した目澤さんと米国２年の山下兄の報告を掲載します。

ハイライト：

・帰国報告会
・都会人流感想文
・イベント案内

目次：

平成１９年度帰国報告	1
平成１８年度決算報告	4
平成１９年度予算	5
帰国報告会アルバム	6
都会人流感想文	7
研修生募集について	8
ハーベストパーティー	9

目澤加奈（スイス）

■私のボスはスーパー主婦
何でも出来るシルビア

大規模複合農家かつ子供５人、研修生２人の大家族を支える彼女はいつもフル回転。お腹をすかして帰ってくる子供や研修生のために食事を作り、お菓子を焼き、パンを焼く。家族が気持ちよく生活できるように、掃除はいつでも気を抜かない。夏には１年分の野菜や果樹を収穫・保存する作業で大忙し。うちの前の草抜きも欠かせないし、綺麗な花の手入れもある。直売所に出す商品作りもあるし、精肉作業もある。子供の宿題だって見なくてはならないし、夫とデートする時間も必要だ。

私は、そんな彼女のもとで多くのことを学んだ。仕事はもちろんのことだが、あらゆる物事に対して責任感を持つこと、諦めないこと、中途半端にしないこと、大切にすること、そして楽しむところは楽しむこと。

配属農場の形態は、鶏120羽・山羊2頭・ポニー1頭・羊100頭・豚100頭・牛60頭などの家畜、小麦、ジャガイモ、果樹、畑などを行う有機・循環型農業であった。そのため仕事は絶えずにあったのに、労働力はほぼ家族と研修生（農繁期は親戚・友人が手伝いにくる）だけだったのは今考えると、驚きである。

■私はこのスイス研修で三つの収穫物を得た。

一つ目は、どんなことでもやり通す度胸。二つ目は、たくさん思い描いた夢。そして三つ目は一緒に苦楽をともに過ごした仲間。この充実したスイスでの一年を過ごすことができたのは、研修仲間をはじめ、家族、友人、協会の方々、スイス受入れ団体の方々など多くの人の支えがあったからこそだと心から感謝している。

帰国報告

山下昌幸（米国２年制）

■ 第一次学課研修

初めての海外進出で、胸の中はドキドキの連続でした。シアトル空港に到着し、辺りをキョロキョロしていたことを思い出します。周りにはアメリカ人が沢山いてビックリ。大学までは、貸し切りバスに乗って仲間と楽しいバスの旅でした。

途中、昼食をとるための休憩があり、僕は本場のマクドナルドへ直行。「ハンバーガーください！」、と英語で言ったつもりでしたが全く通じず、最終的に指でさして、「コレください…」意気消沈って感じでした。それでも頼んだものが出てきて一安心。アメリカのハンバーガーは大きいと思っていましたが、それほど大きくもなく、結構、普通サイズだったのでガッカリしました。

そうこうして、ようやく大学へ到着。そして一次学課研修で感じたことは、「何て暇な生活なのだろうか」「早く農場へ行きたい」そんなことを思いながらの授業だったので、集中が出来ていませんでした。授業中も居眠りをして、先生に机を蹴られて、ぬいぐるみを投げられた挙句、偉い人に呼ばれて、お説教を受け、「このままでは日本に帰ってもらうことになるよ」、そんなことまで言われ、「いやいや、まだ来たばかりで帰りたくはない」と思い、必死で眠気と戦っていました。授業以外での思い出といえば、同じ大学で補修を受けていた、中学か高校生くらいの子達と仲良くなり、昼飯を一緒に食べたり、バスケをしたり、くだらない話で盛り上がったりした事を思い出します。

他には、日没がやたらと遅いということで、夜の10時くらいまで、仲間と外で遊んでいたことなど、野外コンサートを見に行ったり、花火を見たりと楽しいことが山ほどありました。あっという間に時間が過ぎていました。振り返ってみると、授業中に居眠りはしたものの、本当に楽しい生活だったなと感じています。

■ 短期農場実習

さあ、いよいよ仕事が出来ると勢い勇んで向かった先は、ワシントン州ヤキマというインディアン保留区に指定されている町の野菜農場でした。周りを山で囲まれた盆地平野で、その地域ではホップや野菜、果樹などが盛んに作られていました。道路は真っ直ぐに続いており、両脇には畑風景が広がり、山から吹き降ろす風は気持ちよく、少し寒い日もありましたが良い環境でした。

ここのボスは日系３世で、先祖さんが戦前にアメリカへ渡って来たということでした。色々な問題があり、一度は農場をやめなければいけなくなったそうで、でも、そのことについてはあまり聞けませんでした。聞けなかったというよりも、その時の僕の英語力では理解が出来ませんでした。

この農場では、ピーマン、ハラペーニョ、ズッキーニ、カボチャ、キャベツ、芋、スイカ、メロン等を作っていました。仕事内容はというと、畑から来る野菜の梱包作業をしていました。８月当初、時期的にスイカやメロンといった重い物が中心で、箱に詰めてはパレットに積んでいくというものでした。これがとても重いもので、いくつも載せていくうちに僕の腕と腰が悲鳴を･･･、というところまではいかなかったですが、一度スイカを一番上に載せようとして、頭の上まで持ち上げたところ、疲労のせいか腕が限界に達し、スイカの入った箱を頭の上で滑らせてしまい、スイカが僕の頭に落ちてきました。頭からは血ではなく、スイカの薄赤い汁が垂れてきました。そのときのスイカシャワーは、忘れることが出来ません。

日に日に増えていく、ピーマンの梱包も難しいものでした。１時間くらいで、持ち場をローテーションしていくのですが、僕が一番苦手だったものが、ピーマンの入った大きなビンを、機械に載せ少しずつ、ベルトに流す作業で、流す量が多いとベルトが止まってしまい、皆に怒られ、少ないと「マサー！早く流せー！」と怒鳴られ、もうどうしていいのか解らず、「早く代わってくれ～」と思っていました。トマトやチリ（ハラペーニョ等）の梱包は天国のようでした。というのも、それらは傷みが早いため冷蔵庫内での作業で、外の炎天下から冷蔵庫に入るのが楽しみなくらいでした。そこでは、僕

はいつもベルトにトマトを流す作業でした。ピーマンは苦手でも、こちらは僕の専門でした。そんな感じで８月は過ぎ、９月に入り作業にも慣れ、冗談も言いながらの仕事。でも、９月の終わりの頃から地獄のような“セボイヤ”（オニオン）の来襲で、毎日、僕の体はボロボロでした。その作業は、思い出しただけで吐き気がします。引切り無しに来る、一袋50パウンドのセボイヤ袋をパレットに積み上げたり、セボイヤの入ったトラックの上に乗り、足や手でセボイヤをベルトに流したりで、毎日、僕の体からはセボイヤ臭が漂っていました。

　その時期は、作業が夜の10時くらいまで続く日もありました。宿舎ではメキシカンとの共同生活で、車は一台を研修生用として借りていました。町までは15分～20分程度で、買い物には苦労しませんでした。そんな場所で働いて経験したことは、メキシカンはタフな奴らで、でも、それに負けないように頑張っていたことくらいです。それと、ボスの心の温かさを感じました。「従業員に良い仕事をしてもらう為に、我々は良い環境を提供する義務がある」その言葉のとおり穏やかな優しい人でした。僕の理想の男です。

■第二次学課研修

　短期農場実習が終わり、それぞれの実習先からBBCCに戻ってきた仲間達との楽しい時間。それぞれの短期実習の話や、これからの長期実習への思いなどを語ったことを思い出します。

　学校という空間で仲間と過ごした時間は、僕にとって新鮮であり苦痛でもありました。個性が溢れた感じの仲間達と、そうでもない自分、そして人と自分を比べては落ち込んでいた感じです。そんな性格なので同じようなことで落ち込んでいました。楽しいことを素直に楽しめないし、言いたいことが口から上手く出てこなくて、そんな自分にイライラしていました。でも、それは頑張って変わるものでは無いなと、今、思います。

　そんなことは頑張るものではなく普通のことなのでしょうから、頑張る必要はないのだなと思いました。なので、これからは話が下手な自分を自分で許して生きていこうかなと思います。話し下手なら仕事を頑張れば良いと、自分を肯定してあげることが、これからの僕には必要な気がしました。二次学課の思い出と言うより、今の気持ちを書いているという感じです。第二次学課の思い出は、夏と違って寒くて外に出るのが憂鬱だったということです。

■第三次学課研修

　寒い、寒い、ネブラスカでの生活。第二次学課研修までとは違って、ここでの勉強は非常に興味深いものでした。今まで農場で接してきた牛のことを細かく教えを受け、そして実際に触れてみたりして（解体見学やもろもろ）、とても貴重な体験をさせてもらいました。渡米当初よりは少し英語が理解できるようになっていたので、自分なりに質問することも出来、また理解できました。

　僕はここで初めて経営学を教わったのですが、その感想はというと、「難しくて解らないけど必要なことだな」、ということを感じました。経営学は、自分で農場を経営するときに必要なのは当たり前ですが、これは経営者の立場でなくても勉強していかなくてはいけないとも感じました。

　もし自分が、サラリーマンのように給料をもらい生活することになったとしても、その給料を自分でマネージメントしていかなくてはいけないし、知って損することでは無いなと思い、日本へ帰ったら経営学を学びたいと思いました。今まで勉強なんて大嫌いだと思っていましたが、将来の自分の姿を想像したときに、自分の姿がとても惨めなものでした。このまま勉強せずに大人になり老けていって良いはずがない、そんな自分が子供達に教えてやれることなど一つもない、そんな自分にはなりたくはありませんので、ここでの勉強をきっかけにして勉強にいそしんでいきます。

次号へつづく

平成１８年度決算報告

自主事業

期日	項目
7月2日	平成18年度総会、帰国報告会
9月1日	研修生選考会
9月30日	ハーベストパーティー
12月14日	サンクスパーティー
2月4日	研修生壮行会

参加行事

期日	項目
6月14日	交流協会総会（第1回）
6月27日	米2研修生壮行会
6月29日	米2研修生帰国解散式
11月15日	営農研究会
1月11日	地産地消シンポジウム
3月1日	米1、ハワイ研修生帰国解散式
3月4日	欧州、米1、ハワイ研修生壮行会
3月7日	全国会長会議
3月8日	交流協会総会（第2回）
3月29日	欧州研修生帰国解散式

役員会

期日	項目
5月23日	第1回役員会
7月2日	第2回役員会
10月19日	第3回役員会
2月4日	第4回役員会

＊１８年度決算について
活動費の計算方法ををこれまでの「差額方式」から「総額方式」に変更しました。

科　目	１８年度予算額	１８年度決算額	差異	備　考
＜前期繰越金＞				
現金	89,576	89,576		
普通貯金１	332,991	332,991		
定期貯金	1,000,421	1,000,421		
前期繰越金合計	1,422,988	1,422,988		
＜収入の部＞				
入会金	0	0	0	
会　費	306,000	282,000	24,000	3,000円×94名
受験料	0	25,000	-25,000	
寄付金	20,000	0	20,000	
活動収入	50,000	460,490	-410,490	別表1参照
基金キャンペーン		274,000	-274,000	別表2参照
雑収入		856		利子
当期収入合計Ⅰ	376,000	1,042,346	-666,346	
＜支出の部＞				
正会員費	100,000	100,000	0	国際農業者交流協会
会議費	30,000	13,906	16,094	会場費等
通信費	50,000	45,920	4,080	切手、はがき代等
事務費	20,000	200	19,800	ファイル、封筒代等
選考費	30,000	9,300	20,700	会場費、謝金等
活動費	150,000	632,670	-482,670	別表1参照
基金拠出金	50,000	371,000	-321,000	別表2参照
雑　費	20,000	66,092	-46,092	慶弔金等
当期支出合計Ⅰ	450,000	1,239,088	-789,088	
収　支　Ⅱ	-74,000	-196,742		
＜次期繰越＞				
現金	50,000	41,978		
普通貯金	298,567	183,167		
定期貯金	1,000,421	1,001,101		
次期繰越金合計	1,348,988	1,226,246		
正味財産合計	1,348,988	1,226,246		

表1　活動費明細

科　目	収入	支出	残高
啓発	15,000	5,000	10,000
総会	66,000	103,460	-37,460
ハーベストパーティー	72,510	81,400	-8,890
サンクスパーティー	86,000	121,630	-35,630
壮行会	60,180	73,150	-12,970
書籍販売	2,800	22,350	-19,550
農大セミナー	158,000	169,740	-11,740
国農協関連		55,940	
合計	460,490	632,670	-172,180

表2　基金キャンペーン明細

氏名	収入	支出	残高
石田秀樹	3,000		3,000
大谷裕一	10,000		10,000
本間惇	150,000		150,000
植木義一	100,000		100,000
内木秀道	3,000		3,000
清水馨二郎	5,000		5,000
大森斎	3,000		3,000
拠出		321000	
合計	274,000	321,000	-47,000

自主事業

期日	項目
6月23日	平成19年度総会、帰国報告会
8月31日	研修生選考会
10月21日	ハーベストパーティー
12月	サンクスパーティー
2月3日	研修生壮行会

予定行事

期日	項目
6月13日	交流協会総会（第1回）
6月22日	米国研修生壮行会
6月25日	米国研修生帰国解散式
11月8日	営農研究会
12月6日	地産地消シンポジウム
3月	欧州研修生壮行会
3月	交流協会総会（第2回）
3月	欧州研修生帰国解散式

役員会

期日	項目
5月27日	第1回役員会
6月23日	第2回役員会
	以降随時開催

平成１９年度予算

科　目	１９年度予算額	１８年度決算額	差異	備　考
＜前期繰越金＞				
現金	41,978	89,576		
普通貯金1	183,167	332,991		
定期貯金	1,001,101	1,000,421		
前期繰越金合計	1,226,246	1,422,988		
＜収入の部＞				
入会金	0	0	0	
会　費	350,000	282,000	68,000	3500X100
受験料	10,000	25,000	-15,000	
寄付金	0	0	0	
活動収入	300,000	460,490	-160,490	別表1参照
基金キャンペーン	0	274,000	-274,000	
雑収入		856		利子
当期収入合計Ⅰ	660,000	1,042,346	-382,346	
＜支出の部＞				
正会員費	100,000	100,000	0	国際農業者交流協会
会議費	30,000	13,906	16,094	会場費等
通信費	50,000	45,920	4,080	切手、はがき代等
事務費	10,000	200	9,800	ファイル、封筒代等
選考費	10,000	9,300	700	会場費、謝金等
活動費	400,000	632,670	-232,670	別表1参照
基金拠出金	30,000	371,000	-341,000	
雑　費	30,000	66,092	-36,092	慶弔金等
当期支出合計Ⅰ	660,000	1,239,088	-579,088	
収　支　Ⅱ	0	-196,742		
＜次期繰越＞				
現金	41,978	41,978		
普通貯金	183,167	183,167		
定期貯金	1,001,101	1,001,101		
次期繰越金合計	1,226,246	1,226,246		
正味財産合計	1,226,246	1,226,246		

表1　活動費明細

科　目	収入	支出	残高
啓発	0	0	0
総会	70,000	100,000	-30,000
ハーベストパーティー	70,000	80,000	-10,000
サンクスパーティー	70,000	80,000	-10,000
壮行会	60,000	80,000	-20,000
書籍販売	0	0	0
農大セミナー	30,000	30,000	0
国農協関連		30,000	
合計	300,000	400,000	-100,000

帰国報告会・懇親会アルバム

本間会長のあいさつ

米二　山下兄の報告

スイス　目澤さん

ハワイ　塚原さん

藤森新副会長　懇親会あいさつ

佐久間新理事　乾杯あいさつ

特別参加

由利兄（秋田）　椎橋兄（埼玉）

中島兄に結婚記念品（写真立）贈呈

2007 東京農大オープンカレッジ
本間惇会長講座（都会人流）の感想文

国際健康植物科学専門学校　2年花卉園芸学科　猪股辰二

■最近では、テレビや新聞、雑誌、CMでも環境のことを取り上げられ、多くの人が、多少なりとも意識をしています。本間先生の話を聞いて、このままで本当にいいのだろうか？この先、地球の将来はどうなってしまうのだろうか？とあらためて考えさせられました。
■お話の中で『世界終末時計によると、世界の食料や、エネルギーは10月23日で尽き、日本は一番早いオランダの次の3月3日である。』と聞いた時に、自給率が低いということは当たり前ですが、早く食料が尽きてしまうことになります。日本は農業国であると（何となく）思っていたのですが、日本人の食を支える為には多くの食材を輸入に頼らなければならないということを知らされました。先生がおっしゃった言葉に『かけがえのない地球を救う為に、何ができ、何をしようとしていますか？』とあり、とても印象に残っています。
■先日、学校の研修で新潟県のホテル内でのガーデンの施工に1週間行きました。そのホテルでは環境を考え、社員食堂の割り箸を廃止することによって、一日500本もの割り箸を節約しているようです。施工中、僕たち学生は3食すべて社員食堂を利用させていただいたのですが、勿論東京からMY箸を持参して、使用しました。小さなことですが、実行することによってLOHASな生活を感じることができました。今ではスーパーで買い物をした時もMYバックを持って行くようにしています。
■今回受講させていただき気持ちの変化を感じることができました。また本間先生のように、環境と地球のSOSについて一人でも多くの人に伝えることが最も大切であるということを感じました。

国際健康植物科学専門学校平成20年度募集要項

■ 募集学科
動植物セラピー学科　昼2年/4月入学　40名 (男女)
花卉園芸学科　昼2年/4月入学　20名 (男女)
健康食農調理学科　昼2年/4月入学　20名 (男女)

■ 入学資格
1. 高等学校卒業以上及び3年制の高等専修学校を卒業した者。または平成20年3月卒業見込みの者。
2. 1.に挙げた者と同等の学力があると学校長が認めた者。
3. 外国人留学生は、外国において学校教育における12年の課程を修了した者。
4. 高等学校卒業程度認定試験または大学入学資格検定合格者。

■ 選考方法
入学願書到着順に、書類・作文の選考及び面接により合否を決定します。
作文のテーマ:「国際健康植物科学専門学校志望の理由」
※体験入学・学校見学参加者については、面接を免除する場合があります。

■ 願書受付期間
既卒者、平成20年3月大学・短大・専門学校卒業見込み者、留学生
推薦　平成19年9月1日(土)～12月25日(火)
一般　平成19年9月1日(土)～定員になり次第締切
※月～金曜 9～17時　土曜 9～16時　窓口受付
平成20年3月高等学校卒業見込み者
推薦　平成19年10月1日(月)～12月25日(火)
一般　平成19年11月1日(木)～定員になり次第締切
※月～金曜 9～17時　土曜 9～16時　窓口受付

－詳細は直接学校へお問合せください

■ 問合せ先
国際健康植物科学専門学校
187-0031 東京都小平市小川東町５－２１－１４
TEL：０４２－３４２－８２４６
ホームページ
http://www.tanaka.ac.jp/therapy/therapy.html

＊欧州派遣農業研修生

申込締切　9月14日

＊米国コンビ派遣農業研修生

申込締切　11月15日

新旧	役職	氏名	派遣	年度
	会　長	本間　惇	米1	S41
	副会長	村田　正	米2	S53
◎	〃	藤森英明	米2	H2
	〃	安田弥生	スイス	H9
◎	理　事	佐久間勇	米3	S32
◎	〃	堀内睦司	米2	S41
	〃	内木秀道	米2	S44
	〃	坂元良二	米2	S53
	〃	宮崎　晃	米2	S54
	〃	滝田幸成	米2	S57
◎	〃	中島寛一	米2	S60
	〃	足達　聡	米2	H1
	〃	佐藤昇吾	米2	H3
	〃	早川真里	スイス	H7
	〃	神宮清子	米1	H10
	〃	石坂亜紀	スイス	H11
◎	〃	森田純子	ドイツ	H16
◎	〃	目澤加奈	スイス	H17
◎	監　事	堀内久貴	米2	S41
	〃	越川　武	米2	S42
	顧問	伊藤一男	米3	S32
	〃	田中啓介	米3	S32
	〃	越川　武	米2	S42
	〃	植木義一	米3	S31
	◎は新任			

海外派遣農業研修生募集について

(社) 国際農業者交流協会事務局長　伊藤友春

■本年度の海外派遣事業の研修生募集が終盤を迎えました。ご承知のとおり当事業は、外務省補助事業の終期設定により農水省補助事業として昨年度に再スタート、更に今年は公募事業となり、我々事務局はその都度対応に四苦八苦している訳ですが、派遣事業の存続自体についてご心配される方も多いのではないかと思います。協会ではこうしたことに振り回されることなく、事業を安定して実施すべき方法を模索している所ではありますが、まずは応募者の確保が大前提と考えています。

■そこで、今年は従来の募集や啓発キャラバンに加え、バナー広告への取組み、募集説明会の開催など、総力を挙げてローラー作戦で研修生の発掘に取り組んでいる訳ですが、例年は定員を上回る欧州派遣、その中でも特に女性の希望者が今年は芳しくないようです。(各県からの県推薦者の状況報告より推測) 体力的に欧米人に劣る研修生が多く、特に女性の場合は体格的なハンディがあって配属先を確保するのは容易ではないのですが、そんな中でスイスでは女性を受入れる配属先が10軒程あります。こうした農家を確保することも、事業を安定して実施していく上でも重要なことですので、もし適格者がお知り合いにいましたら、是非この機会に海外研修への参加を勧めて下さい。

■県によっては既に募集を締め切っておりますが、一般応募 (個人申込み) の方法もありますので、詳細は派遣業務課 (03-5703-0252) へご相談下さい。なお、米国コンビネーションコースの締め切りは11月15日、まだ時間的な余裕がありますので、啓蒙頂ければ幸いです。

＊ＯＢのメーリングリスト「ＯＢ情報」から転載しました

■編集後記

昨年度から会員の結婚祝いや受賞のお祝いにフォトスタンドを贈っています。ガラスのフォトフレームにＦＩＡのロゴマークと「祝」それに名前を彫りこんでいます。今年は石坂さん、中島兄、上田さんと結婚ラッシュ、写真立ての評判もなかなかのものです。皆さん末永くお幸せに・・・。

今年度は２年に一度の役員改選の年です。左記の通りの体制になりました。本間会長のもと、役員一同ＦＩＡ活動のため頑張りますので何卒よろしくお願いいたします。

― 編集発行 ―
東京国際農業者協会
〒144-0052
大田区蒲田5-39-2-6F
（社）国際農業者交流協会内
TEL:03-5703-0253
FAX:03-5703-0255
E-MAIL:farm@planet.nifty.jp
発行責任者：村田　正

東京国際農業者協会

都会のオアシス　藤森農園

ハーベストパーティーのご案内

ちょっと早いですが今年もハーベストパーティーの季節がやってまいります。
今回は藤森兄の農場で開催します。
新宿から西武線でおよそ４０分、東大和市駅から徒歩８分の藤森農園はバラや花鉢、観葉植物などを生産しています。もちろん恒例のビンゴパーティーもあります。研修生ならではの楽しいひと時を満喫しましょう。
会員の皆様だけでなく、ご家族・ご友人をお誘いの上、ぜひご参加ください。
お待ちしています。

開催日：１０月２１日（日）

開始時間：午後１２時

会場：藤森農園

所在地：東京都小平市小川町１－１３５
アクセスについては裏面をごらん下さい

参加費：４千円（中学生以上）

◆　お願い　◆

当日、会場の準備をお手伝いいただける方は１１時までに集合してください。
恒例のビンゴ大会をおこないますので、各自「賞品用ギフト」をご用意下さい。なお、食器類を各自でご持参いただきますようお願いします。
また、食材、飲み物などの持込みは大歓迎です。

ハーベストパーティー
参　加　申　込　書

☐ 参加します

☐ 参加できません

お名前

連絡先

男性　　人　　女性　　人　　子供　　人

担当：窪田
e-mail　e_kubota@jaec.org

ＴＥＬ：０３－５７０３－０２５３
ＦＡＸ：０３－５７０３－０２５５

東京都大田区蒲田5-39-2-6Ｆ（社）国際農業者交流協会内

周辺地図　　藤森農園　小平市小川町1－153

アクセス
■電車　西武拝島線東大和駅から徒歩8分　上宿小学校前
■車　　新宿駅から青梅街道およそ25km

投書コーナー　　－　会員の皆様のご意見をお寄せください　－

お名前　　**電子メール**

送り先：FIAニュース編集局　　FAX：03－6907－8826　　電子メール：fia@planet.nifty.jp